

平成23年度一般会計予算について

学校再編に伴う予算として「学校建設の実施設設計費」として一億一千万円が計上された事に対して、設計費を予算案より削除する修正案が出されました。

環境教育常任委員会では委員長裁決で修正案が可決された事を受けての本会議でもあり、多くの議員が討論いたしました。

賛成討論

山本 光晴

当初予算においては、多くの重要な施策が反映されている。てっぺんプロジェクトとしてさまざまな重要な企画がされており、大いに推進すべきと考える。

本予算の一番の眼目は、学校の再編に関する問題と思う。スポーツを通じて子どもたちとかわつてきた思いから学校は、たくさん的人数で切磋琢磨しあいながらまたしっかりといい学校を作っていくことが一番大事なことに認識している。賛成の立場での討論とする。

反対討論

高木 教夫

三月十一日の東日本大震災の被害を見れば、復興支援に学校建設の一億一千万円の予算を差し引いて救済をして行くぐらい現地は大変な状況であります。この現状を見て、今後四、五年間も待てないのが学校耐震化の問題です。第二次診断を行い、耐震化の対策を講じるべきです。その予算を建設関連予算よりも、先に示すべきであると思います。又住民の皆さんの為の国保や介護保険の一般会計からの繰り入れがなされてなく、建設関係ばかりの予算が目につき、福祉関係の予算が充当されていない予算には賛成しかねますので、反対の立場をとらせて頂きます。

賛成討論

岡本ひとし

平成二十三年度一般会計予算は、住民福祉を継続していくことが最も重要であり、住民生活には多大な迷惑がかかることが予想されてきます。特に、義務教育終了までの医療費無料に代表されるように、次世代を担う子ども達への施策が求められております。更なる住民福祉の充実を求め賛成します。

反対討論

木戸 俊治

一番の問題点は、保護者や住民に十分な納得が得られたかどうか、この一点に尽きると考える。今回の学校再編問題は、住民投票で判断しても良い位重要な問題と思われる、まちづくりという大きな論点も外してはならず、それも含めて議論するのが当然と想っている。この一年間ぐらい十分議論をして、小学校、中学校をどうしていくかを考えるのが先決である。この予算の承認を前提とした付帯決議に関しては、さらなる理解を求めるという意味あいからも、私は反対したい。

賛成討論

美谷 芳昭

今回の一般会計予算は50億5200万円計上されていますが、何と云っても学校再編の設計費が組み込まれていることです。135年続いた小学校の火を消すことは、寂しくも有り、断腸の思いではありますが、やはり子ども達の教育環境の確保と健全な成長をさせることが一番重要な選択肢であると思いき、苦渋の決断ではありますが、学校再編に賛成の立場をとります。

よって、本予算を含め、23年度当初予算は適正な予算と解しまして、賛成とします。

反対討論

谷 義樹

原案に反対の立場から討論させていただきます。

新しい学校建設については、十分な住民合意が得られておらないと判断いたします。したがって、その予算を含む当初予算には反対したいと思います。以上。

反対討論

八木 修

町政運営方針では、経済的な豊かさという尺度で見るとはなく新しい価値観を持った豊かさを追求していくと言っている。しかしそのことを実践するには、能勢町が持っている自然環境を含む資源を活かして行くしかない。その基礎単位は地域であり、その中核を学校が担っている。今回の東日本大震災を見て、改めて地域の絆を考えさせられた。地域に学校が必要であり、その観点からのまちづくりを無視した予算には反対する。